

# 市民ネットワーク

# 議会速報

2011年千葉市議会 第2回定例会  
6月9日～6月24日

山田京子（若葉区）  
湯浅美和子（美浜区）

統一地方選挙後初めての

## 震災対策一色に染まった定例会

東日本大震災による液状化の対応など、総額96億787万円の補正予算案が承認されました。また、国民健康保険事業特別会計の繰り上げ充用が認定されたほか、千葉市の今後10年の新基本計画が、初めて議決を経て承認されました。一般質問では、28人中21人が震災関連を取り上げ、まさに震災対策一色に染まった議会となりました。

## 災害復旧まっしぐらの補正予算

補正予算に盛り込まれたのは、被災者への支援（表①）、私立保育園復旧、福祉施設復旧と自家発電装置の助成、インフラや公共施設等の復旧、消防隊出動経費、防災行政無線設備改修費などでした。さらに太陽光発電設備助成は、震災後の自然エネルギーへの需要拡大に向けて、100件分の900万円を追加、受け付けは7月8日から7月20日までです。

市債発行により、実質公債費比率（注）の上昇が心配ですが、約半分は国が負担するので、影響は0.1%程度とのことでした。

また、道路、下水道整備は、補正予算が成立した今後、本格的な工事が始まります。何度も道路を掘り返すことのないよう、計画的な工事を求めました。

（注）自治体の借金の多さの指標の一つ。25%を超えるとイエローカード。

表①

	支援内容	財源と総額
被災者住宅再建支援（※）	最高100万円	県 計7億7575万円
災害援護資金貸付	最高250万円	国 計9090万円
被災者住宅建築資金利子補助	最高年利2%	県の制度に市が上乗せ 計1500万円
災害見舞金	全壊5万円・半壊3万円	市 計1651万円

その他、千葉市の予算とは別に、日赤や「千葉市応援します義援金」などからの支援も予定されています。  
※ 国の支援の範囲から外れる被災者の解体費等補助

表② 補正予算財源の内訳

国	県	市債	寄付金	市の基金など
41億250万円	7億8325万円	38億1160万円	736万円	9億316万円

## 膨らんだ累積赤字119億円超え！

### 国保会計専決処分で、4年連続の繰り上げ充用

平成22年度の国民健康保険特別会計の収支不足が明らかになったため、平成23年度予算額を増額補正し、補てんするものです。繰り上げ充用は翌年度の収支を“先食い”して、なんとか帳尻を合わせるといふ手法。国保会計は全国的にも破たん状態で、こういった形を取らざるを得ない自治体も増えています。

千葉市では平成19年度決算で、初めて2億6700万円の繰り上げ充用に手を染め、わずか4年で、累積が保険料収入の約半分にも膨らみました。

こうなった一番の理由は、一般会計のひっ迫から赤字繰り入れができなかったことにつきまします。国へ、制度の抜本的な改正を求めるとともに、他政令市では赤字補てんも行われているわけですから、市としても繰り入れのあり方を再検討すべきです。

## 新基本計画について

新基本計画は昨年6月、議会が議決する事項となり調査特別委員会が設置されました。地震の影響で、最終の委員会が中止となり、十分な審議が尽くされたとはいえず残念です。

しかし、今回の基本計画策定では、さまざまな市民参加手法が取られたことは評価できます。以前より提案してきた「無作為抽出市民」の参加は、市長が代わった効果か、素早く取り入れられることになりました。

計画には、今後の政策展開にどれほど市民参加が可能なのか、財政計画の盛り込みが不十分、評価の制度が不明確など、問題があります。今年中に行われる実施計画策定時にしっかり議論していかねばなりません。